

簡易な CLT 普及展示物（仮設建築物）

# CLT PAVILION - CLT の茶室 -

空求建築設計事務所 / 建築設計エイチ・エム / 長井建築設計室

構造協力：(有)柚山製材所ユヤマ 1 級建築設計工房

- 計画 2016.10 ~ 2016.12
- 施工 2017.1 ~ 2017.3
- 規模 3,900 x 2,818 x 4,140
- 材種 杉



新たな木材の需要拡大が見込まれる CLT（直交集成板）に関する技術の普及と人材育成、施工展示の計画である。ここでは、CLT の普及ということで意匠・構造としてのケーススタディを行いながら、三人の設計者がそれぞれの課題を検討し、一体の仮設建築物を計画、設計、施工までを行っている。規模としては、今後の運搬も考えてユニックの架台から決定し CLT の構造特性を活かした意匠としている。CLT は自然素材であり工業製品でもあることから施工精度をどこまで許容できるかといった確認の観点からラミナ幅にて割り付けを行っている。また金物の制作計画も行い内面には一切、金物が見えない納まりとしている。実際に精度・強度に対する検討をモックアップで行い、制作図・施工図を作成し結果としてこちらの想定よりも良い精度になっている。また当初は、CLT のみで構成しパヴィリオンとして計画してきたが、障子と置きタタミを設置することでどこまでやわらかい表情になるかの比較も行っている。茶室はその時代のケーススタディ的なものであったり、パヴィリオンだとも思っていて今回は新たな木材での新たな茶室の提案にもなっている。（長井信彦）